

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 26 人

② 算数 26 人

③ 理科 26 人

5 留意事項

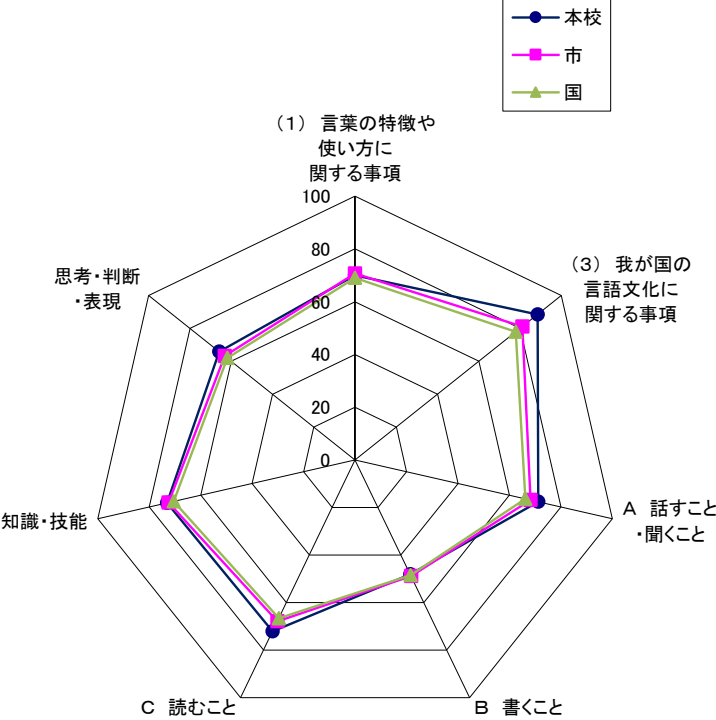
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	88.5	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.2	68.2	66.2
	B 書くこと	48.1	48.9	48.5
	C 読むこと	72.1	67.9	66.6
観点	知識・技能	73.1	72.5	70.5
	思考・判断・表現	65.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

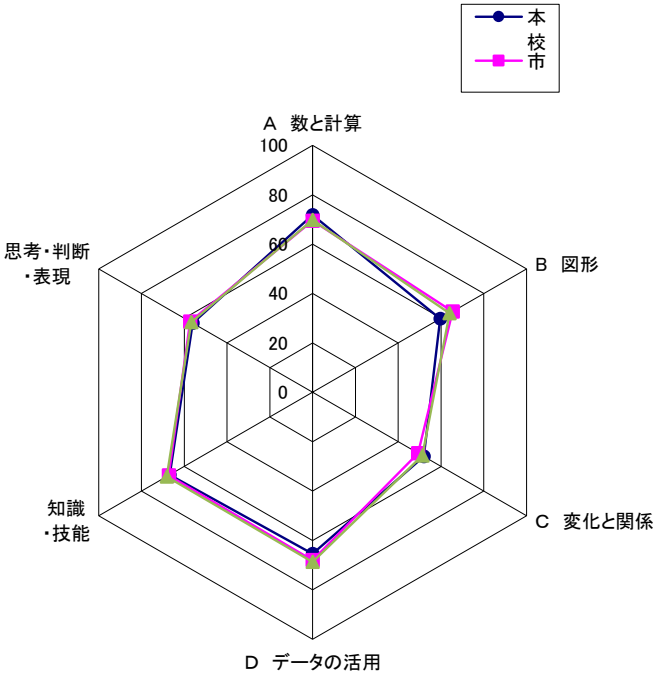
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、いずれも県の平均正答率を上回っている。 ●話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題の平均正答率は、全国平均を8.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・作文を書く際には、主述の関係を意識させ、文と文との意味のつながりに気を付けて書いたり、接続語の役割を正しく捉え、適切に選んで使ったりするよう支援する。 ・授業のノート指導において、話し言葉と書き言葉の違いの意識付けを図り、繰り返し指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の平均正答率は、県平均を7.5ポイント上回っている	・新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得させるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題の平均正答率は、全国平均を3.8ポイント上回っている。 ○どちらかの題材を選んで、どのように話すかを考える問題では、平均正答率が全国平均を6.1ポイント上回っている。	・学級活動の話合い活動等を通して、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめて話せるよう、支援していく。 ・総合的な学習の時間では、聞いた内容をどのように活用していくのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしてからインタビューに臨むように指導していく。
B 書くこと	○文章に対する意見や感想を伝え合い、文のよい所を見付ける問題では、平均正答率が全国平均を4.6ポイント上回った。 ●どのようなことに注意して書いたのか、文書全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、平均正答率が全国平均を5.4ポイント下回った。	・授業や行事等の振り返りで、自分の意見や考えを書く機会を多くもつようにすることで、文章を書くことに慣れ、表現力を伸ばせるようにする。 ・各教科の授業においても、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じ、伝えたいことを明確にしていくよう習慣づけていく。 ・授業の中で物語文や説明文の構成や表現の工夫について、
C 読むこと	○登場人物の相互関係について描写を基に捉える問題では、平均正答率が全国平均を6.3ポイント上回った。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像して書く問題では、平均正答率が全国平均を2.9ポイント下回っている。	・授業や行事等の振り返りで、自分の意見や考えを書く機会を多くもつようにすることで、文章を書くことに慣れ、表現力を伸ばせるようにする。 ・各教科の授業においても、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じ、伝えたいことを明確にしていくよう習慣づけていく。

宇都宮市立西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.8	69.5	69.8
	B 図形	59.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	51.9	49.3	51.3
	D データの活用	65.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

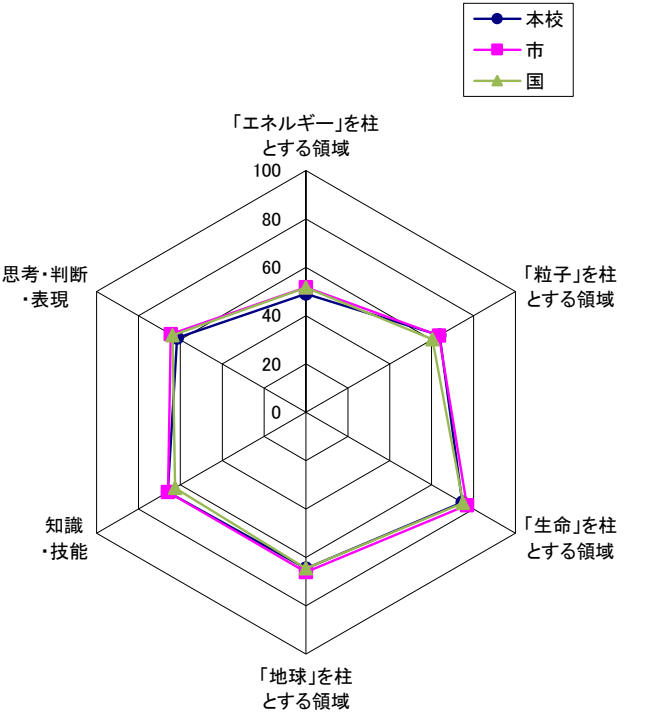
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数と計算はよくできている。基礎基本の定着のため、学校全体で、計画的に朝の学習の時間に計算練習問題やパワーアップ問題など繰り返し行ってきた成果であると考えられる。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題の平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回っている。	・今後も、基本的な計算の定着に向けた計算スキルの向上の取組を継続していくとともに、習熟度別学習や少人数指導を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算の方法について、話し合う活動を通して、筋道を立てて説明する力を系統的に育てるようにする。
B 図形	○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角の構成の仕方について考察し、記述する問題の平均正答率は、県平均を15.8ポイント上回っていることから、性質をよく捉えることができている。 ●長方形、ひし形、平行四辺形の意味や性質、構成の仕方についての問題については、全国平均正答率を長方形の問題が7ポイント、ひし形の問題が9ポイント、平行四辺形の問題は19ポイント下回っている。正しく理解し、問いに答えることへの課題が	・図形の性質や構成要素の理解を更に深められるよう、具体物を操作して図形を作成したり分解したりしながら、図形を認識する感覚が豊かになるような体験的活動を積極的に取り入れていく。 ・授業の中で個人やペア、グループでじっくり考える時間を確保していくと共に、解答に至った自分の考えを、分かりやすく記述し、説明できるように指導していく。
C 変化と関係	○果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶことができる割合は、全国平均正答率を9ポイント上回っている。 ○果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す問題の全国平均正答率は、4ポイント上回っている。 ●百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の平均正答率は、県平均を1.5ポイント下回っている。	・日常生活の具体的な場面を想起する問題を扱い、数量などの情報を提示しなくても、児童自らが変化に伴う2つの数量を見出すことができるよう、類似問題に繰り返し取り組ませていく。 ・グラフに表すことによって、資料の特徴や傾向について捉えやすくなることに気付かせ、内容を正確に読み取れるよう指導していく。
D データの活用	○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目し、ある項目に当たる数の式と答えを求める問題の平均正答率は、県平均とほぼ同じである。 ●分類されたデータを基に、目的に応じて、データの特徴を捉え、考察する問題や円グラフの読み取りの問題の平均正答率は、いずれも県平均をわずかに下回っている。	・一つのグラフの読み取りだけでなく、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断できるよう、授業の中でも身近な話題を取り扱って考える場面を設定していく。

宇都宮市立西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.0	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	63.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	74.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	64.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	61.5	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○水溶液の凍り方について、自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えを持つ問題では、平均正答率が、全国平均を11.9ポイント上回った。 ●光の性質を基に、鏡を操作して指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題では、平均正答率が全校平均を16.3ポイント下回っている。	・日光は直進するという光の性質を理解させると共に、基礎基本の定着を図るため、実験の過程や得られた結果を適切に記録をさせるなどして、学習の習慣化を図る。
「粒子」を柱とする領域	○メスシリンダーの器具を理解し、正しい扱いを身に付けているかの問題では、平均正答率が全国平均を6.9ポイント上回った。 ●それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ問題では、平均正答率が全国平均を12.8ポイント下回った。	・器具の名称や扱い方などは身に付けている児童の割合が多い。自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、記述できるように支援していく。
「生命」を柱とする領域	○昆虫の体のつくりを理解し、資料を基に、育ち方や主な食べ物の表から、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題では、平均正答率が全国平均を12.4ポイント上回っている。 ●表から気付いたことを基に、問題を見出して選ぶ問いでは、平均正答率が全国平均を15.5ポイント下回っている。	・観察などで得た結果を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるようにする。
「地球」を柱とする領域	○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を残したグラフを見通して選ぶ問題では、全国平均とほぼ同じ正答率であった。 ●冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題では、平均正答率が、全国平均を9.8ポイント下回っている。	・観察で得た結果を問題に対する視点で分析し、解釈し、自分の考えをもち、表現できるよう継続指導していく。

宇都宮市立西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という質問では92%の児童が肯定的な回答をしている。それに対応して、「算数の授業で公式を習うとき、そのわけを理解するようにしている」の質問では、88%の児童が「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の肯定的な回答をしている。このことから、将来のことを踏まえ、学習において公式やきまりを理解するようにしている姿勢が身についていることが分かる。

●「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」という質問では、73%の児童が「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している。理科の質問項目では、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えていますか」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返っていますか」のどの質問項目においても、肯定的割合が低いことから、今後も理科的な筋道を立てて考える力を継続的に育てるようにする。

●「毎日新聞を読む」児童は、12%と全国の割合に比べても高い。しかし、「ほとんど、全く読まない」という児童の割合も、69%と高い傾向にある。調べ学習においては、インターネットや図鑑などを意図的に使い分けさせるとともに、新聞を読む機会を設定するなど、学校の教育活動において、新聞に触れる学習を盛り込んでいくことで、活字離れに対応していく。

宇都宮市立西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導	パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい教科の内容を担任以外の教員が支援することで少人数制での指導を継続している。	「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対し、本校の回答は宇都宮市の平均を下回っている。一方で「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある」という児童の回答は85%であり、児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分の考えと比べながら聴く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を用いた意見交流や教師が児童同士のコーディネートするをなどして、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」の質問では、肯定的に回答している児童が8割であった。今後も、引き続き、他者の意見と比べながらよりよく考える学級活動の力を入れ、そこで学んだことを各教科の話し合い活動に生かすよう継続して指導していく。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の意見から考えを深めたりできる指導に努めている。	学習課題を明確にし児童に理解させようとして把握させ、授業を展開するよう努める。 授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎基本の習得のための学習習慣の確立 ・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成	・個に応じた指導 ・宇都宮モデルの活用 ・特別活動における指導	・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。 ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める児童の育成に努める。